

## 第6学年1組 社会科学習指導案

### 1 単元名 中単元3「近代国家へのあゆみ」 小単元(2)「近代国家に向けて」

### 2 指導観

- 本学級の子どもは、第6学年から始まった歴史学習に高い興味・関心を示し、図書室で自ら歴史に関する本や資料を借りて読んだり、そこから得た知識を学習に生かそうとしたりするなど意欲的である。観察・資料活用の技能については、教科書や資料集、提示された資料を活用し、必要な情報を読み取ることはできている。また、読み取った情報を枠で囲んだり矢印を使ったりして関係図にまとめようとする姿も見られる。しかし、読み取る情報量に個人差があり、調べたことをノートにまとめることが難しい子どもも一部見られる。思考力・判断力・表現力等に関わる面では、1学期の社会科の学習を通して、資料から事実を読み取るだけでなく、その意味などを考えたり、友達の考えに関連付けて発言したりすることができる子どもが増えてきた。また、学習の中で、資料から分かったことや自分の考えを素直に発言する子どもの姿も見られるようになり、そこから活発な話し合い活動につながる場面も増えてきている。しかし、一面的な認識にとどまり、人物の思いや願い、社会的事象の意味や背景をとらえるまでには至っていない子どもも数名いる。

- 本小単元は、小学校学習指導要領社会科第6学年の内容(1)クを基に設定した。この内容は、明治中・後期から大正期における、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かるようにすることをねらいとしている。

開国以降、日本は西洋の国々に追いつくことを目指して急速に近代化を進めてきた。しかし、諸外国との関係は、明治の世の中になってもまだ大きな変化を見せていない。近代国家として歩み始めた日本にとって、不平等条約の改正は国民の悲願であり、その後の国の発展につながる急務の課題であったと考えられる。

本小単元は、ノルマントン号事件の不当な判決後、陸奥宗光がイギリスとの交渉に成功し、不平等条約が一部改正できたことから学習が始まる。そして、日清・日露の戦争、産業の発展や暮らしの向上、小村寿太郎の条約改正に向けた交渉などを調べ、不平等条約を改正するまでの過程が分かるようになる。条約改正に至るまでの様々な社会的事象の意味や背景、人物の業績等を調べることを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解することができると思う。

- 指導に当たっては、以下の手立てを講じる。

#### ① 問いの焦点化の工夫

本小単元の指導にあたっては、1時間の導入の場面や「起承転結」の学習展開における「転」の場面において、社会的事象の意味や背景、時間の経過などに着目させる資料を提示したり、子どもの既有的認識を揺さぶる問いかけをしたりして、「なぜ～なのだろう」「どうすれば～になる(できる)のだろう」などと問いの焦点化を図るようにする。

本時の学習は、小単元を貫く学習問題をつくる場面である。まず、前小単元の学習を想起しながら、不平等条約の改正に向けて、どのような取組が進められてきたかを調べる活動に取り組む。その後、子どもが学習問題づくりへと向かうことができるように、不平等条約が改正されるまでの年表を提示し、「なぜ、不平等条約を改正することができたのだろう」と問いを焦点化するようにする。

#### ② 思考を深める話し合い活動の工夫

本小単元の学習問題をつくる場面や調べたことを基に社会的事象の意味や背景に迫る場面では、子どもが互いの考えを交流する話し合い活動を設定する。その話し合い活動が、子どもの思考をより深めたり広げたりするように、既習の事実や具体的な資料を基にして、比較・関連付けたり、総合したりしながら話し合うことができる活動を仕組むようにする。具体的には、立場や根拠を明確にして自分の考えを説明する活動や、付箋を活用して複数の考えを整理する活動、ホワイト

ボードを活用して人物の働きや日本と諸外国との関係などを関係図に表す活動などを効果的に位置付けていくようにする。

### ③ 学習評価の工夫

学習の終末で、一人一人がまとめと振り返りを行う活動を設定する。「マイまとめ」として本時の学習のまとめをノートに記述したり、振り返りの内容を焦点化して記述したりすることにより、ねらいに照らした関心・意欲や思考力・判断力・表現力等を見取っていくようにする。

本小単元では、学習の中で取り扱った政策や出来事が、国力の充実や国際的地位の向上に向けて「どのような成果があったのか」、「どのような課題が残されているのか」など、振り返りの内容を焦点化し、毎時間記述するようにする。

## 3 小単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	○ 日清・日露の戦争，条約改正，産業や科学の発展，戦後の社会の様子の 変化などに関心をもち，それを意欲的に調べることを通して，新しい日本の 国づくりに関心を深めようとする。
社会的な 思考・判断・表現	○ 我が国の国力が充実し，国際的地位が向上したことなどについて，学習 問題や予想，学習計画を考え表現することができる。 ○ 我が国の国力が充実し，国際的地位が向上したことなどについて，調べ たことを比較したり関連付けたり統合したりして，人物の願いや働き，代 表的な文化遺産の意味を考え，適切に表現することができる。
観察・資料活用の 技能	○ 日清・日露の戦争，条約改正，産業や科学の発展，戦後の社会の様子の 変化などについて，各種の基礎的資料を効果的に読み取ったりまとめたり することができる。
社会的事象について の知識・理解	○ 我が国の国力が充実し，国際的地位が向上したことを理解する。

4 指導計画（総時数6時間）

	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
つかむ	<p>1 なぜ不平等条約を改正できたのかを予想し、学習問題をつくる。 &lt;本時&gt;①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(学習問題) 不平等条約は、どのようにして改正されたのだろうか。また、日本と世界の国々との関係はどのように変わっていくのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本と諸外国の対等でない関係や条約改正を求める国民の声の強まりに気付くことができるように、ノルマントン号事件の風刺画を基に事件の概要を知り、不平等条約が日本に及ぼす影響について考える。</li> <li>○ 年表を基に、条約改正の歩みや国際的地位の変化への関心を高め、学習問題をつくることができるように、「なぜ不平等条約を改正することができたのだろうか」と問いを焦点化し、話し合う活動を設定する。</li> <li>○ 学習問題と学習計画に結び付けることができるように、予想を構造的に板書する。</li> </ul>	<p>【関】条約改正の歩みや我が国の国際的地位の変化に関心をもち、意欲的に調べようとしている。（発言、ノート）</p> <p>【思】条約改正の歩みや我が国の国際的地位の変化について予想し、学習問題をつくっている。（発言、ノート）</p>
調べ、考え、表現する	<p>1 日清・日露戦争について調べ、2つの戦争の様子や2度にわたって大国と戦争をしたわけについて考え、話し合う。 ②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 戦争勃発の背景や当時の国際情勢をとらえることができるように、2つの戦争の風刺画を提示する。</li> <li>○ 日本の領土の拡大が世界の国々にとってどのような意味をもつか考えることができるように、「2つの戦争の後の日本の領土の変化は、世界の国々の目にどう映ったのだろうか」と問いを焦点化し、話し合う活動を設定する。</li> </ul>	<p>【思】日本の領土の拡大が世界に与えた影響について考え、適切に表現している。（発言、ノート）</p> <p>【知】我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解している。（発言、ノート）</p>
	<p>2 2つの戦争の後の日本の産業や人々の暮らしの変化について調べる。 ①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2つの戦争の後、重工業を中心とした産業が発展し、国力がさらに充実したことをとらえることができるように、八幡製鉄所の生産高やお雇い外国人の人数の推移を表した資料を提示する。</li> </ul>	<p>【技】2つの戦争後の産業や人々の暮らしの変化について、写真や絵などの資料を効果的に活用して調べている。（発言、ノート）</p>
まとめる・深める	<p>1 2つの戦争の後の日本と外国との関係の変化や外国との不平等条約を完全に改正することができた背景について考え、話し合う。 ①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 条約改正の背景について、多角的に考えることができるように、「条約改正を成し遂げた大きな要因は何だったのだろうか」と問いを焦点化し、話し合う活動を設定する。その際、条約改正までの政府の政策や出来事等をカードにして、ホワイトボードにまとめるようにする。</li> </ul>	<p>【思】外国との条約改正の背景について考え、適切に表現している。（発言、ノート）</p>
	<p>2 差別をなくす運動や選挙権を求める運動について調べ、社会の様子の変化について話し合う。 ①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な運動を通して国民が社会に参加する権利を求めていたことをとらえることができるように、米騒動の絵や水平社演説、平塚らいてうの呼びかけ等の資料を提示する。</li> </ul>	<p>【知】人々の暮らしの向上に伴って社会の様子が変化してきたことを理解している。（発言、ノート）</p>

5 本時の学習（1時間目/全6時間）

於 6年1組 教室

- (1) 主眼 不平等条約の改正に向けて、どのような取組が進められてきたのか調べたり、なぜ欧米諸国との条約を改正することができたのか予想したりする活動を通して、条約改正の歩みや我が国の国際的地位の変化への関心を高め、学習問題をつくることができるようにする。
- (2) 準備 ノルマントン号事件の風刺画、人物画、年表（自作）、付箋、国旗・国名カード
- (3) 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価規準（評価方法）
<p>1 本時の学習のめあてを話し合う。</p>  <p>条約改正を目指して政府が色々な政策を行っていたなあ。どのようなものがあったかな。</p> <p>(めあて) 不平等条約の改正に向けて、どのような取組が進められてきたのだろう。(学習問題をつくろう)</p>	<p>○ 日本と欧米諸国との関係や条約改正を求める世論の高まりに着目することができるように、ノルマントン号事件の風刺画を提示する。また、本時の学習のめあてをつかむことができるように、前小単元の学習を振り返り、明治政府が不平等条約の改正を目指していたことを想起する。</p>
<p>2 不平等条約の改正に向けて、どのような取組が進められてきたか調べ、話し合う。</p> <p>3 なぜ、不平等条約を改正することができたのか予想し、学習問題をつくる。</p> <p>(1) 個人で予想する。</p> <p>(2) グループでそれぞれの予想を話し合う。</p>	<p>○ 既習の様々な取組を振り返り、日本の国力が高まり、国際的地位が向上していったことをとらえることができるようにする。その際、教科書や学びの足跡、既習のノートの活用を促すとともに、国旗・国名カードを活用して構造的な板書にする。</p> <p>○ 不平等条約が改正されるまでの年表を提示し、なぜ不平等条約を改正することができたのかを考え、付箋に書くようにする。 【関】条約改正の歩みや我が国の国際的地位の変化に関心をもち、意欲的に調べようとしている。(発言、ノート)</p> <p>○ 個人で予想することが難しい場合、年表から「日本と外国との関係」に関わる事実に着目するように助言し、一緒に見つけたり、いくつか具体例を示し「日本の国際的地位はどのように変わったか」と問いかけたりする。</p> <p>◎ グループで話し合う際には、付箋を年表に貼りながら、互いの予想を交流したり、似ている考えを整理したりする。</p>
<p>なぜ、不平等条約を改正することができたのだろう。</p>  <p>日清戦争や日露戦争で勝利して、外国から強い国と認められたから。</p>  <p>重工業が発達したから。産業の様子も変わっていったのではないかな。</p>  <p>イギリスと日英同盟を結んだから。それにより他の国も認められたと思う。</p>  <p>鹿鳴館を建てて、日本の西洋化を外国に積極的にアピールしたから。</p>	
<p>(3) 学級全体で話し合い、学習問題をつくる。</p>	<p>○ 学習問題をつくったり、学習問題と学習計画を結び付けたりすることができるように、学級全体で予想を集約し、それを構造的に板書する。 【思】条約改正の歩みや我が国の国際的地位の変化について予想し、学習問題をつくっている。(発言、ノート)</p>
<p>(学習問題) 不平等条約は、どのようにして改正されたのだろう。また、日本と世界の国々との関係はどのように変わっていくのだろう。</p>	
<p>4 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。</p>	<p>○ 子ども自身が変容を感じることができるように、学習問題に対する予想を改めて記述する時間を確保する。</p>